

第8章 松山遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高9～10m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北500m、東西600m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の250m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約350mの比高差9mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより約100ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は、

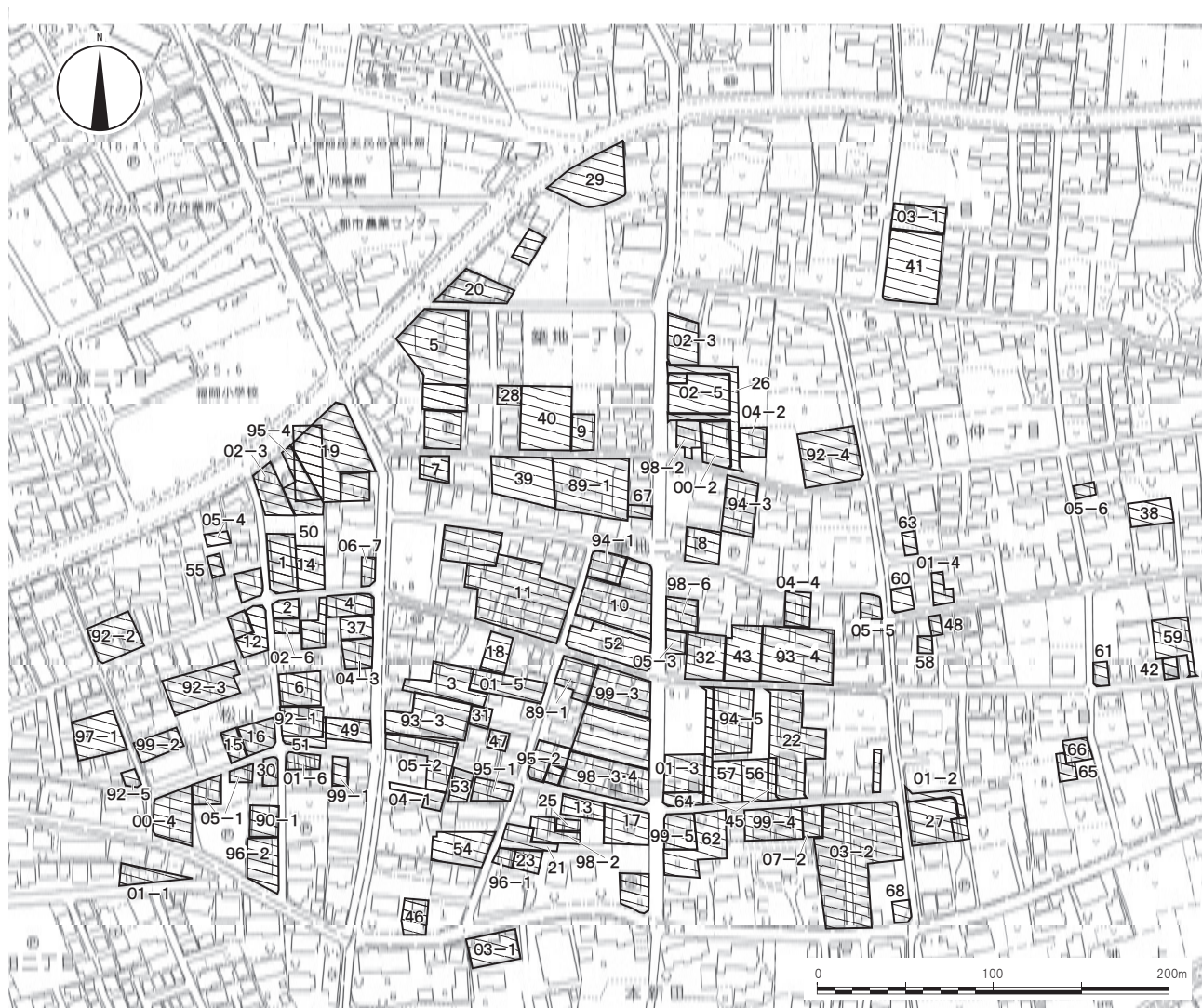
長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西240m、南北210m程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、2007年、遺跡範囲の変更増補を行った。

II 松山遺跡第61地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2012年4月17日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2012年4月16日から19日まで、幅約1mのトレンチ2本を設定し、重機で表土除去後、



第19図 松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第14表 松山遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
05試(1)	松山2-2-40の一部	(2005.4.6~7)	313	土地分譲	なし	市内1
05試(2)	築地3-1-32,34,43	(2005.4.19~21)	549	土地分譲	なし	市内1
05試(3)	築地2-5-32	(2005.4.28)	132	個人住宅	なし	市内1
31次	築地3-1-69	2005.6.14~23(2005.6.9~13)	120	個人住宅	古墳住居跡1	市内1
05試(8)	築地2-5-3	(2005.8.30~9.13)	567	宅地造成	平安住居跡1	市内1
32次	築地2-5-30の一部	2005.9.8~13(2005.8.30~9.7)	132	個人住宅	平安住居跡2	市内1
05試(5)	築地2-5-36	(2005.10.31)	125	個人住宅	なし	市内1
05試(4)	松山2-4-23	(2005.10.20~21)	161	個人住宅	なし	市内1
05試(6)	仲1-4-26	(2005.11.14)	108	個人住宅	なし	市内1
05試(7)	松山2-5-21	(2006.2.28)	100	個人住宅	なし	市内2
37	松山2-6-10,13	(2006.4.13)	228	個人住宅	なし	市内3
38	仲1-4-3,9,12,13,24	(2006.5.29)	2,176	宅地造成	なし	市内3
39	築地2-3-10	(2007.1.10~20)	937	宅地造成	なし	市内3
40	築地1-1-5	(2007.2.2~8)2.21~3.9	1,047	宅地造成	奈良住居跡1、中世遺構検出	市内3
41	中ノ島1-2-5	(2007.2.7~9)2.21~3.5	1,281	宅地造成	中世遺構遺物検出	市内3
42	仲2-3-15	(2007.2.13)	108	個人住宅	なし	市内3
43	築地2-5-2	(2007.4.11~24)	668	分譲住宅	堀跡1、土坑1、旧石器ナイフ1点	市内4
44	築地3-2-10,2-14	(2008.6.9~11)	132	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
45	築地3-4-7の一部	2008.10.1~23(2008.9.4~30)	390	道路(上下水道)	奈良・平安時代堅穴住居跡2、掘立柱建物跡2、堅穴状遺構1、時期不明の溝10、土坑、ビット	市内6
46	築地3-1-33の一部,1-35の一部	(2009.2.17)	309	個人住宅	遺構遺物なし	市内6
47	築地3-1-52	(2009.5.11,12)	121	個人住宅	ビット	市内8
48	仲2-2-34	(2009.7.1)	67	個人住宅	遺構遺物なし	市内8
49	松山2-6-1,14,22の一部	(2009.10.17~22)2009.10.27~11.18	449	宅地造成	平安時代堅穴住居跡1(住居内鍛冶炉検出)、土坑1、溝1、ビット1	市内8
50	松山2-5-3,17	(2009.11.27~12.1)	797	分譲住宅	溝1、ビット7	市内8
51	松山2-6-22,23,28の一部	(2010.5.10~13)	360	分譲住宅	遺構遺物なし	市内10
52	築地2-2-1	(2010.8.26~9.3)	694	分譲住宅	溝1、落とし穴1、工事立会	市内10
53	築地3-1-11	(2010.9.10~21)	205	個人住宅	近代以降の溝3、アナグラ1、慎重工事	市内10
54	築地3-1-6,76~83	(2010.9.21~10.1)2010.10.4~11.5	540	宅地造成	奈良・平安住居跡3確認、西側の住居は盛土保存、他2は本調査	市内9
55	松山2-4-24の一部	(2011.1.17)1.18~1.31	226	個人住宅	奈良平安時代の住居跡1、掘立柱建物跡1、本調査	市内10
56	築地3-4-7-4-8の一部	(2011.4.4~14)4.11~15	483	共同住宅	奈良平安時代掘立柱建物跡2他、本調査(一部工事立会)	市内11
57	築地3-4-47	(2001.1.4~15)	241	分譲住宅	隣接する45地点から跡H34号住居跡と溝、遺物なし	市内14
58	仲2-2-31	(2011.6.6~8)6.14	115	個人住宅	井戸1、溝1、ビット1、本調査	市内14
59	仲2-3-6、3-9	(2011.8.8~9)8.10~11	560	個人住宅	土坑2、溝3、縄文土器、須恵器、本調査	市内14
60	仲1-1-15	(2012.3.26~27)	165	個人住宅	堀跡1、溝1、陶磁器、焙烙、工事立会	市内14
61	仲2-3-3	(2012.4.16~19)	113	個人住宅	溝1、土坑3、陶磁器	市内15
62	築地3-5-11,14,19	(2012.6.11~21)7.23~8.1	842	分譲住宅	縄文時代住居跡1、奈良平安時代住居跡1、溝6、縄文土器、銭貨、他	市内12
63	仲1-1-55,56,57	(2012.6.5)	120	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
64	築地3-4-9	(2012.6.7~15)	314	分譲住宅	溝4、近世の土坑、陶磁器	市内15
65	仲2-1-25,36	(2013.2.13~18)2.19~3.21	630	物置	奈良平安住居跡2、掘立柱建物跡3、土坑6、溝6、須恵器、旧石器	市内15
66	仲2-1-53,54		179	個人住宅		市内15
67	築地3-3-13	(2013.2.19)	92	個人住宅	遺構遺物なし	市内15
68	築地3-5-1	(2013.3.7~8)	166	個人住宅	井戸1、土坑1、ビット4、須恵器、土師器等	市内15
69	仲1-51,53,55	(2013.9.10~11)9.12~17	298	道路築造	縄文時代集石土坑1、溝1	未報告
70	仲2-2-39,41	(2013.4.11~16)4.17~23	220	道路	奈良平安住居跡1、中世以降井戸1、集石土坑1、溝2	未報告
71	築地3-1-16,32,34	(2013.4.30~5.1)	240	分譲住宅	遺構なし、陶器片1	未報告
72	松山1-4-1	(2013.5.24)	199	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
73	築地3-1-56	(2013.8.19)8.20	165	個人住宅	平安時代住居跡1、須恵器	未報告
74	仲2-1-37	(2013.12.24~26)	280	分譲住宅	井戸1、集石土坑1、溝2、土坑1、陶磁器	未報告
75	仲2-2-2	(2014.1.14~20)8.5~11	606	分譲住宅	平安住居跡1、溝3、須恵器、土師器	未報告
76	仲2-2-48	(2014.1.22~28)9.26~10.2	120	個人住宅	井戸1、溝1、土器	未報告
	仲2-2-37	(2014.1.22~28)11.12~17	120	個人住宅	古代住居跡1、土師器	未報告
	仲2-2-37	(2014.1.22~28)	362	造成工事	平安時代住居跡1、井戸2、溝2、土坑3、土師器、須恵器、中世陶器	未報告
77	松山2-6-2,3,12の各一部	(2014.3.3~12)3.13~27	493	個人住宅	平安時代住居跡1、ビット2、井戸1、土師器、須恵器	未報告
78	松山2-5-5	(2013.5.22)	242	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
79	本新田395-5の一部	(2014.8.5)	153	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
80	池上372	(2015.3.12)	1,183	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
81	築地1-1-12	(2015.3.23)	247	分譲住宅	遺構遺物なし	未報告
82	本新田411の一部	(2015.7.30~31)	194	個人住宅	溝1、遺物なし	未報告
83	仲1-2-22	(2015.8.31)	98	分譲住宅	溝1、遺物なし	未報告
84	築地3-4-13	(2015.9.15~16)	455	宅地造成	平安時代住居跡1、井戸1	未報告

第15表 松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形状	規模	炉	設置壁	カマド	周溝	主軸方位	時期	備考	文献
						カマドK		規模 cm					
1	1978	第1次1号住居	完掘	正方形	390×380	K	東	110×75	○		国分前半		埋蔵文化財の調査Ⅰ
2	〃	第1次2号住居	完掘	台形	360×320	K	東	120×85	○		国分前半		〃
3	1979	第2次3号住居	2/3	(方形)	350× 10	K	東			一部	国分後半		埋蔵文化財の調査Ⅱ
4	〃	第3次4号住居	完掘	方形	530×475	K	北	200×100	○	N-14-E	国分後半		〃
5	1991	第10次5号住居	完掘	長方形	230×350	K	北→東		○		9C 2半期		埋蔵文化財の調査14
6	〃	第10次6号住居	2/3	方形	340×300	K	東		○		9C 2半期		〃
7	〃	第11次7号住居	完掘	正方形	400×400				○		8C 4半期		〃
8	1992	第13次8号住居	3/4	(方形)	400×				○	N-10-E	8C 3半期		埋蔵文化財の調査15
9	1993	第15次9号住居	完掘		A440×350、B420×310、C260×300	K	東→北	A210×210、B210×210、C80×65	○		9C 1半期	鉄鉢型須恵器出土	埋蔵文化財の調査16
10	〃	第16次10号住居	1/3	正方形	560×560	K	北	130×80	○		8C 4半期		〃
11	〃	第17次11号住居	完掘	方形	600×600	K	北		○	最大住居	7C 4半期	黒色土師器出土	〃
12	〃	第18次12号住居	完掘	方形	400×320	K	北		(○)		8C 4半期		〃と市史
13	1994	第19次13号住居	完掘	長方形	450×300	K	北		○	N-5-E	9C 1半期		松山遺跡第19次調査概要
14	〃	第19次14号住居	完掘	長方形	450×500	K	東→北		○	N-5-E	9C 1半期	土鍾出土	〃
15	〃	第20次15号住居	完掘	長方形	370×470	K	北西	70×70	○		7C 4半期		松山遺跡第20次の調査
16	1995	7年試掘(2)16号住居								N-20-W	6C		未報告
17	〃	第21次17号住居	完掘	長方形	480×400	K	北		○		7C 4半期		埋蔵文化財の調査19
18	1997	第22次18号住居	完掘	長方形	240×460	K	東	90×60	○	N-50-E	8C末		埋蔵文化財の調査20
	〃	第22次1号掘立	部分	長方形	東西5間 南北3間						8C末~9C初		〃
	〃	第22次2号掘立	部分	長方形	東西2間 南北2間						8C末~9C初		〃
	〃	第22次3号掘立	部分	長方形	(東西2間) 南北3間						8C末~9C初		〃
19	1998	第23次19号住居	4/5	長方形	260×290				○	N-30-W	8C後半	土鍾6点出土	埋蔵文化財の調査21
20	1999	第25次20号住居									8C初頭	暗紋土師器	市史通史編
21	〃	第25次21号住居									8C初頭		未報告
22	2000	第26次22号住居	完掘		360×	K	北		○		7C後半	14年度完掘、焼失住居	埋蔵文化財の調査23
23	〃	第27次23号住居	完掘	台形	600×720	K	北		○		8C半ば		〃
24	2001	第28次24号住居	1/2		340×	K	北西		○		8C中葉		埋蔵文化財の調査24
25	2000	12年度試掘5	2/3										埋蔵文化財の調査23
26	2002	第29次26号住居	完掘	長方形	420×360	K	北		○		7C後半		埋蔵文化財の調査25
27	2003	15年度試掘27号住居	一部		(盛土保存)								埋蔵文化財の調査26
28	〃	15年度試掘28号住居	1/2		(盛土保存)								〃
29	〃	第30次29号住居	完掘	長方形	360×420	K	東		○		9C前半		〃
30	2005	第31次30号住居	完掘	長方形	360×600	K	北		○			土鍾出土	市内遺跡群1
31	〃	第32次31号住居	完掘	長方形	380×330×	K	東		○	S-65-E	9C中葉		〃
32	〃	第32次32号住居	1/2	長方形	東西4m×南北3m以上	K	東		○	S-85-E			〃
33	2006	40地点H34号住居	完掘	方形	455×420	K	東	98×154	○	N-5-E	8C後半		市内遺跡群3
34	2008	45地点H34号住居	完掘	方形	364×361	K	北	122×125	○	N-96-E			市内遺跡群6
35	2008	45地点H35号住居	1/2	(方形)	504×(222)				○			焼失住居	市内遺跡群6
36	2009	49地点H36号住居	完掘	方形	280×290	K	東	105×100	○	N-92-E	8C後半	鍛冶炉1	市内遺跡群7
37	2010	54地点H37号住居	完掘	方形	434×524	K	北	70×86	○	N-13-E	8C1四半期		市内遺跡群9
38	2010	54地点H38号住居	一部	方形	(440)×468	K	東	95	○	N-107-E	8C1四半期	プラン確認	市内遺跡群9
39	2010	54地点H39号住居	完掘	方形	336×459	K	北	79×101	○	N-4-E	8C1四半期		市内遺跡群9
40	2011	55地点H40号住居	3/4	(方形)	(300)×(320)	K	東	95×123	○	N-90-E	9C前半		市内遺跡群10
41	2012	62地点H41号住居	3/4	(方形)	410×(300)	K	北		○	N-18-E			市内遺跡群12
42	2013	65-66地点H42号住居		方形	460×440	K	東	110×106	○	N-62-E			市内遺跡群15
43	2013	66地点H43A号住居		方形	470×470	—	—	—	—	N-66-E			市内遺跡群15
2013		66地点H43B号住居		方形	700×700	K	東		—	N-66-E			市内遺跡群15



第20図 松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

V 松山遺跡第 65・66 地点

(1) 調査の概要

調査は 65 地点が物置建設、66 地点が個人住宅建設に伴うもので、原因者よりそれぞれ 2013 年 1 月 29 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡東端部に位置する。申請者と協議の結果、両地点は隣接するため、遺構の存在を確認するための試掘調査を同時に実施した。

試掘調査は 2013 年 2 月 13 日から 18 日まで、幅約 1 m のトレンチ 5 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、一部で焼土や遺構覆土を検出したため、発掘調査の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 50 ～ 60 cm である。

本調査は 2013 年 2 月 19 日から 3 月 21 日まで行い、奈良・平安時代の住居跡 2 軒、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 6 基、溝 4 条を調査した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

① H42 号住居跡

【位置】調査区の西側に位置する。2.5m 東に H43 号住居跡がある。

【形状・規模】主軸方位は N - 62° - E、東壁に竈を備える。平面形態は方形、規模は主軸の東西 4.6 m × 南北 4.4 m、確認面からの深さ 25 cm である。

ピットは 4 基検出したが、柱穴となるようなピットはない。

住居跡の半分ほどは床面にまで達する攪乱を受けている。

【床・周溝】壁際の 0.8 ～ 1.8 m 幅の周囲は深さ 20 cm ほど掘り込んだ掘方があり、厚さ 10 cm ほど平らに貼床されている。

周溝は竈のある東側を除いて幅 35 ～ 52 cm、下幅 20 ～ 38 cm、深さ 10 ～ 15 cm である。

【竈】東壁中央やや北寄りに位置する。袖は左側に若干残る。壁からの奥行 110 cm、幅 106 cm、粘土は左側に僅かに残り、10 cm 厚、表面は焼けて赤化している。掘方は奥行 162 cm、幅 90 cm、確認面からの深さ 45 cm を測る。

② H43A 号住居跡

【位置】調査区の東側に位置する。2.5m 西に H42 号

住居跡がある。住居の拡張が行われており、拡張前の旧住居跡を H43A 号住居跡、拡張後の新住居跡を H43B 号住居跡として報告する。

本住居跡は H43B 号住居跡の貼床を剥し、掘方の調査中に本住居跡の掘方とピットを確認できた。竈は確認できなかった。

【形状・規模】主軸方位は N - 66° - E。平面形態は方形、規模は主軸の東西 4.7 m × 南北 4.7 m、掘方の深さ 5 cm である。

【柱穴】P17、P19、P20、P22 の 4 本を主柱穴とする。柱穴間の距離は柱の中心で P20 - P22 が 2.1 m、残りは 2.15 m を測る。

③ H43B 号住居跡

【位置】調査区の東側に位置する。2.5m 西に H42 号住居跡がある。住居の拡張が行われており、拡張前の旧住居跡を H43A 号住居跡、拡張後の新住居跡を H43B 号住居跡として報告する。1 ～ 3 号掘立柱建物跡と重複し、掘立柱建物跡より古い。

【形状・規模】主軸方位は N - 66° - E。平面形態は方形、規模は主軸の東西方 7.0 m × 南北 7.0 m、確認面からの深さ 25 cm である。

【柱穴】P1、P5、P8、P9 の 4 本を主柱穴とする。柱穴間の距離は柱の中心で P1 - P9 が 3.3 m、P9 - P5 と P9 - P8 が 3.3 m、P1 - P8 が 3.6 m を測る。

【床・周溝】壁際の 1.0 ～ 1.8 m 幅の周囲は深さ 20 ～ 30 cm ほど掘り込んだ掘方があり、厚さ 10 cm ほど平らに貼床されている。

周溝は全周し、幅 20 ～ 45 cm、下幅 5 ～ 18 cm、深さ 5 ～ 15 cm である。

【竈】東壁中央に位置する。中心部に攪乱が入り、あまり残りは良くないが、袖は左右に若干残る。袖端からの奥行壁からの奥行 150 cm、壁からの奥行 125 cm、裾部の幅は 140 cm、内幅 55 cm、粘土は袖と右壁に残り、10 cm 厚、表面は焼けて赤化している。掘方は奥行 190 cm、幅 85 cm、確認面からの深さ 55 cm を測る。

④ 掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は、明確のものは 3 棟を確認した。43 号住居跡に重複し、全てが竪穴住居跡よりも新しい。発掘調査の時点では、掘立柱建物跡の認識はなく、ピットないしは土坑の重複として考えて、平面図・断面図を作成した。整理の段階で、図面を検討中に掘立柱建物跡と確認したものである。全ての土層図から、掘立柱建物跡は次のような関係にあると判断した。な

お、調査区が狭く、掘立柱建物跡の全貌は不明である。

掘立柱建物跡は、古い順に、2号掘立柱建物跡、1号掘立柱建物跡、3号掘立柱建物跡、である。柱穴の掘方の深さは、柱穴の深さ新しくなるにしたがって浅くなっているらしい。断面図からは柱痕は確認されていない。柱痕の下端は掘方の底面に達していない可能性があるが、確かなことは不明である。柱穴間の間隔を下記の表にまとめた。柱穴の配置が、3間以上の配列を桁行き、その直角をなす配列を梁行きとして記述した。建物の軸の傾きは下記の通り。

1号掘立柱建物跡 N－33°－W、2号掘立柱建物跡 N－15°－W、3号掘立柱建物跡 N－25°－W
【1号掘立柱建物跡】

桁行き2間以上、梁行き2間の建物。北西側の柱穴が調査区外に当たっていて不明である。柱穴の深さは、ピット No.3 と No.6b を除き、7m50 cm前後で略一定で、1号掘立柱建物跡で最も深い。(下記の柱穴の深さは、標高 7m を

基準として記してある。例：ピット No.1 のピットの深さ 55 は、標高 7m55 cm、の意味である。以下同じ。)

【2号掘立柱建物跡】

3 棟の掘立柱建物跡の中で最も古い。3 間、梁行き 2 間の建物で北東角の柱穴のみ調査区外に当たる。柱穴の深さは、ピットは掘立柱建物跡の内で全体的に最も深く 7m50 ～ 60 cm前後である。

【3号掘立柱建物跡】

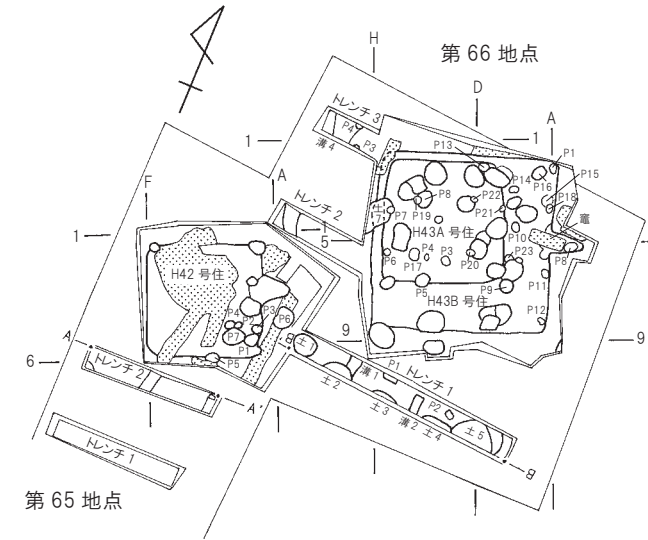
3 棟の掘立柱建物跡の中で最も新しい。桁行き 3 間、梁行き 2 間、の建物で、西側桁行きの柱穴は調査区外にあたり不明。東側の桁行きと東・西の梁り行きの一部が判明した。柱穴の深さは、ピット No.15・5b を除き、7m30 前後で、3 棟の掘立柱建物跡の中で最も浅い。

第20表 松山遺跡第66地点1号掘立柱建物跡ピット計測表(単位cm)

	北西側桁		北東側梁				南東側桁			
柱穴No.	1	2	3	4	5a	6b				
柱間長(cm)	215	270	270	215	215					
ピット深(cm)	55	49	27	53	53	37				

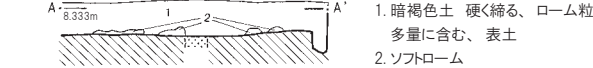
第 21 表 松山遺跡第 66 地点 2 号掘立柱建物跡ピット計測表 (単位 cm)

	北側桁			西側梁			南側桁			東側梁	
柱穴No.	11	10	9	8	7	14	13	6a	12		
柱間長(cm)	190	190	230	230	190	190	190	225			
ピット深(cm)	55	45	48	53	59	53	55	59	59		

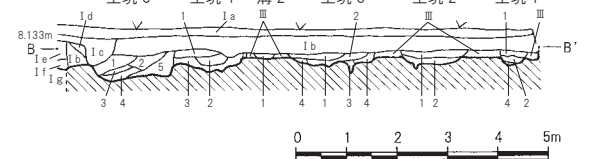


- トレンチ 1
- I a. 黒褐色土 締り強、粘性有、整地層、上部は灰色砕石、下部はロームブロックを多く含む黒褐色土
 - I b. 黒褐色土 締り強、粘性有、耕作土 3mm 以下ローム粒少し含む、褐色味有り
 - I c. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒、少し含む、ボソボソしている
 - I d. 黒褐色土 締り有、粘性有、シミ状に黒色土、ローム土をやや多く含む
 - I e. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ～ 20mm ロームブロックやや多く含む、黄灰色味がある
 - I f. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック主体、ボソボソしている
 - I g. 黒褐色土 締り強、粘性有、ブロック状の土が主体
 - Ⅲ. 暗褐色土 ソフトローム質、褐色味有り、シミ状に黒褐色土が多く貫入する

65 地点・トレンチ 2



66 地点・トレンチ 1



- 土坑 1
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、15mm 以下ロームブロック・粒多く含む
 - 4. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ～ 15mm ロームブロック多く含む
- 土坑 2
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒均一に少し含む、I b より黒色味有り
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下焼土少し含む
- 土坑 3
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5 ～ 10mm ローム粒・5mm 以下焼土少し含む
 - 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土を多く含む、5 ～ 15mm ロームブロック少し
 - 3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む
 - 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黒褐色土を多く含む
- 土坑 4
- 1. 黄灰色土 締り強、粘性有、漸移層のような土、3mm 大焼土・5mm 炭化物少し含む
 - 2. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、含有物はほとんどない、地山ローム土と比べ色調が明るい点で区別できる
 - 3. 黄褐色土 締り強、粘性有、含有物はほとんどない、地山ローム土と比べ色調が明るい点で区別できる
- 溝 2
- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、I b 層に似る、1cm ロームブロック・焼土少し含む

第 25 図 松山遺跡第 65・66 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

第22表 松山遺跡第66地点3号掘立柱建物跡ピット計測表(単位cm)

	西側梁		北側桁						東側梁	
柱穴No.	15		16		17		18		19	5
柱間長(cm)		230		190		190		190		230
ピット深(cm)	53		31		35		37		25	41

第23表 松山遺跡第66地点H42号住居内ピットー覧表(単位cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	不整形	58×44	41×32	20.5	
P2	方形	31×25	21×18	15.2	
P3	方形	40×30	28×22	14.2	
P4	方形	35×34	20×20	6.4	



P1

1. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒多く、5～30mm ロームブロック・黒色土少し含む

2. 黄灰色土 締り有、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む

3. 黄灰色土 締り強、粘性有、5～10mm ロームブロック多く含む

P2

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒多く、3mm 以下焼土やや多く含む

2. 黒褐色土 締り有、粘性有、ソフトローム土を多く含む

P3

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒・焼土やや多く含む

2. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にロームブロック・5mm 以下ローム粒やや多く含む

P4

1. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土多く、2～15mm 焼土やや多く含む

1. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm 以下ローム粒やや多く含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～50mm ロームブロックやや多く含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、2層より色調暗い、5～15mm ロームブロックやや多く含む

4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに、7cm 以下ロームブロック主体

5. 黄灰色土 締り強、粘性有、1層より締り強い、1cm 以下ロームブロック・粒少し含む

6. 黄灰色土 締り強、粘性有、4cm 以下ロームブロック多く含む

竈構築土

1. 赤褐色土 締り硬化、粘性有、黒褐色土主体、15mm 大焼土ブロック多く含む

2. 赤褐色土 締り硬化、粘性有、含有物は少ない、根攪乱様の黒褐色土少し含む

3. 暗褐色土 締り強、粘性やや弱、被熱して硬化した5～40mm ロームブロック多く含む、被熱以外は貼床の土と同質

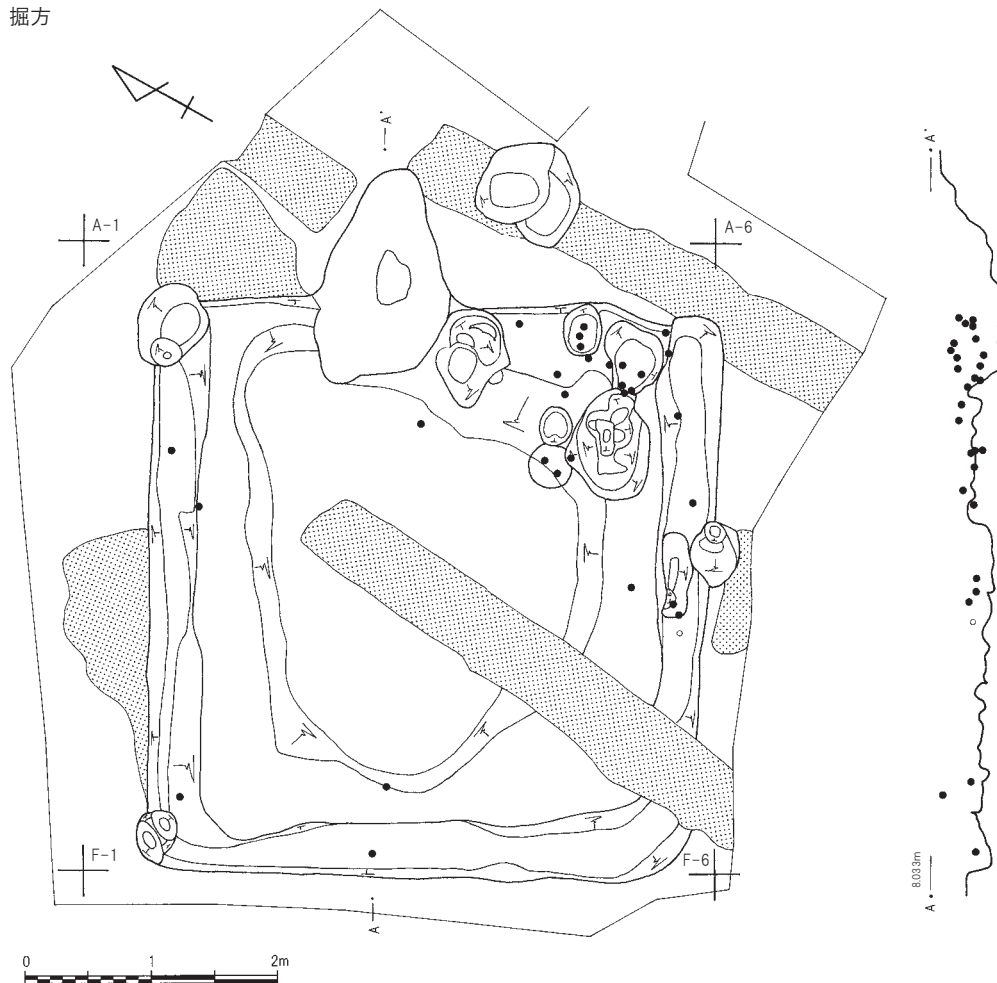
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下焼土少し含む

5. 黄灰色土 締り強、粘性有、2mm 以下焼土・炭化物少し含む

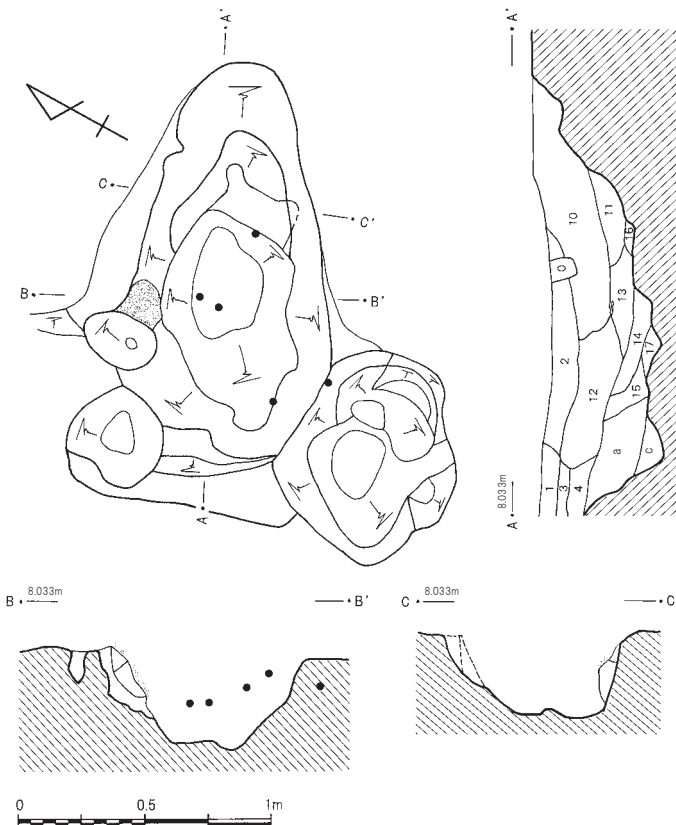
6. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体、シミ状に黒褐色土含む

第 26 図 松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡 (1/60)

掘方



竈



I. 表土

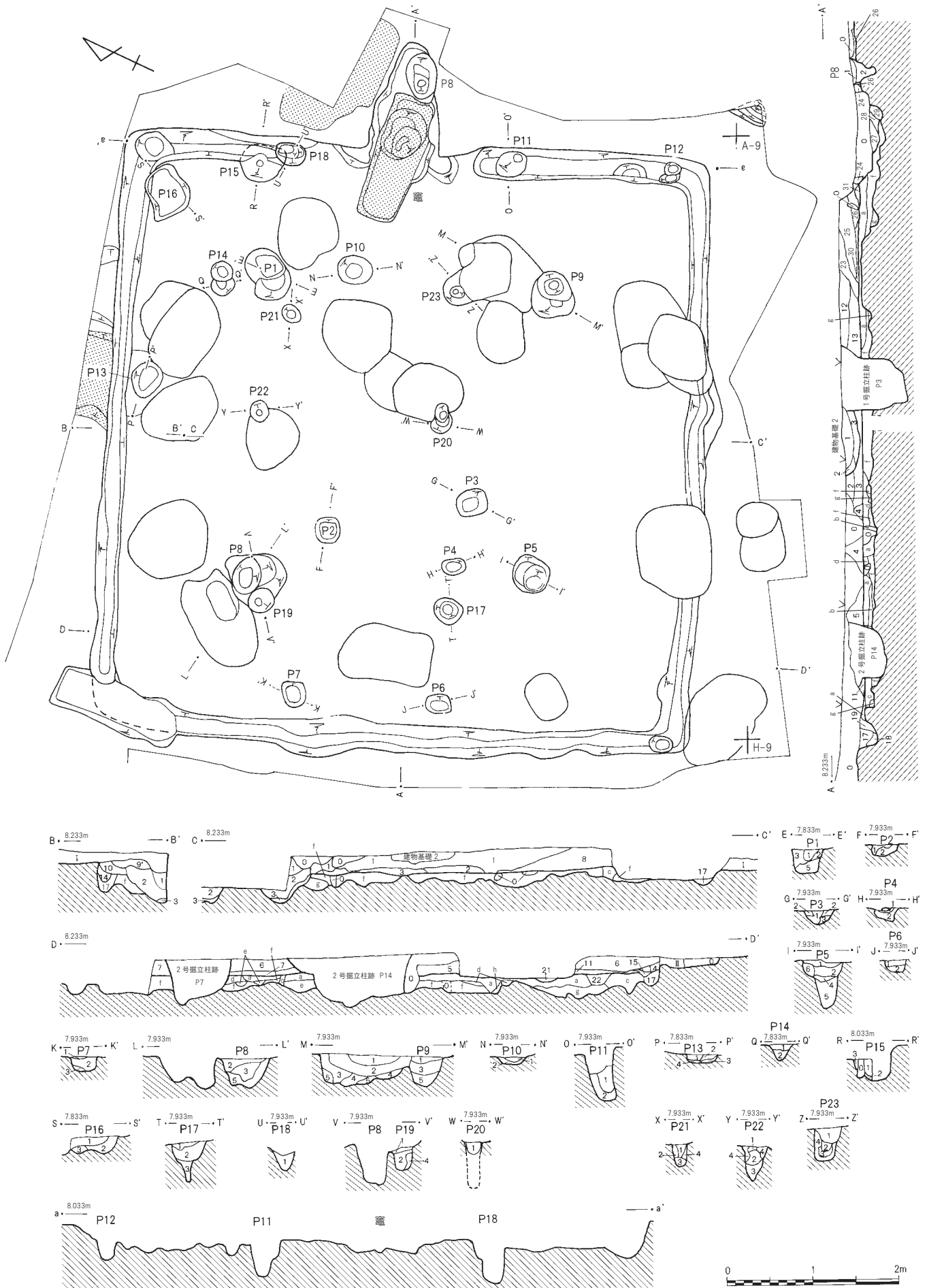
0. 攪乱

1. 黄灰色土 締り強、粘性有、0.5mm 以下ローム粒均一に少し、5mm 以下焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土粒やや多く、1～5mm 炭化物少し含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm 以下焼土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、5mm 以下焼土やや多く含む、5mm 以下灰白色粘土が目立つ
5. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm 以下ローム粒・焼土少し含む
6. 黒褐色土 締り有、粘性有、シミ状にローム粒・5～10mm 焼土少し含む
7. 黒褐色土 締り有、粘性有、シミ状の5mm 以下ローム粒多く含む、黄灰色味が有る、2cm 以下ロームブロック・3mm 以下焼土少し含む
8. 黒褐色土 締り有、粘性有、5～20mm ロームブロックやや多く含む
9. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味が有る、含有物は少ない

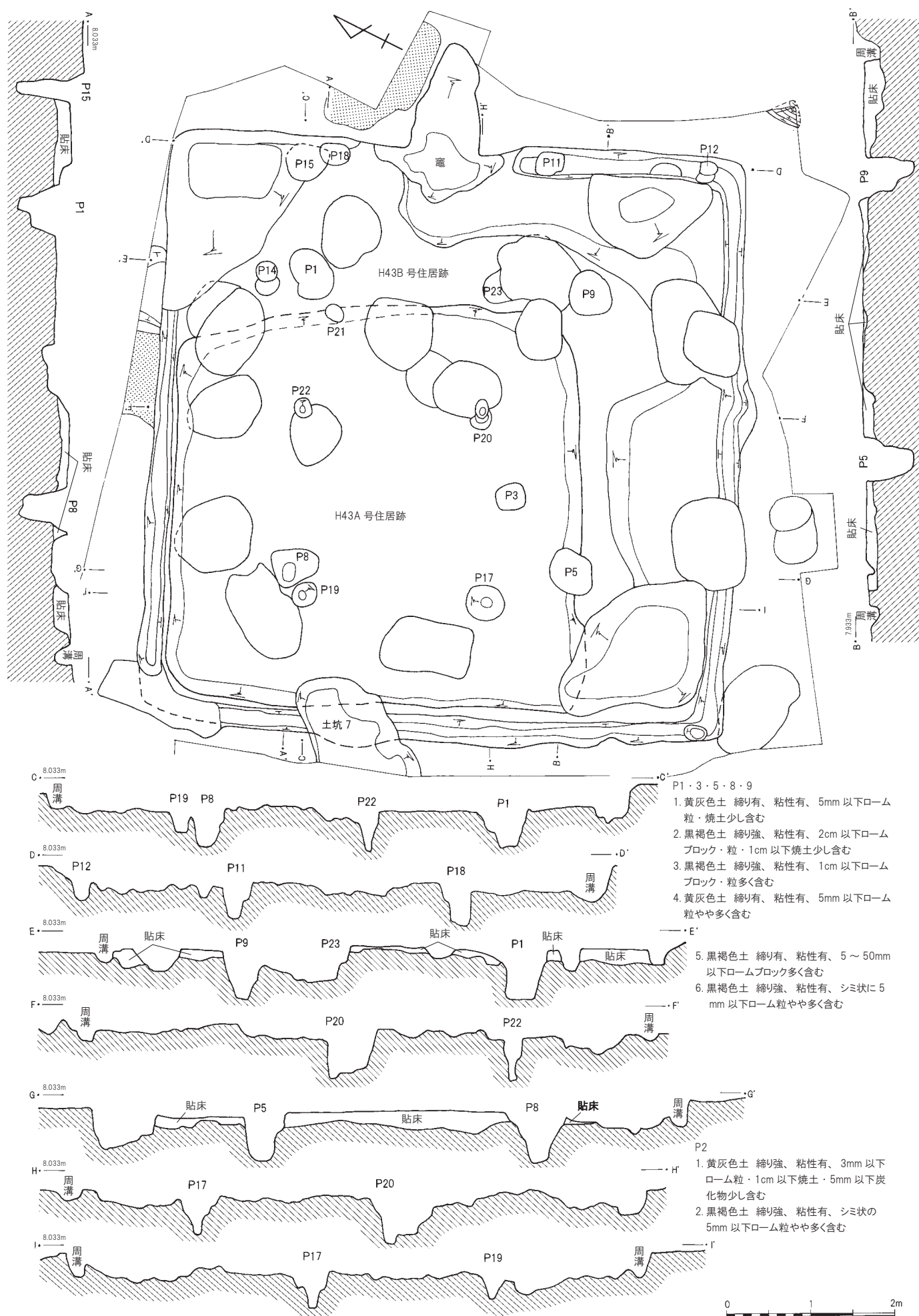
竈覆土

10. 白灰色粘土 締り強、粘性有、シミ状に5mm 以下焼土少し含む
11. 白灰色粘土 締り強、粘性有、5mm 以下焼土やや多く含む
12. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm 以下焼土・5mm 以下白灰色粘土多く、3mm 以下炭化物やや多く含む
13. 赤褐色土 締り強、粘性やや弱、黄灰色土主体に、3～30mm 焼土多く含む
14. 黒褐色土 締り強、粘性やや弱、3mm 以下焼土やや多く、5～20mm ロームブロック少し含む
15. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に15mm 以下ロームブロック・粒やや多く、3mm 以下焼土少し含む
16. 黄灰色土 締り強、粘性有、シミ状に5mm 以下ローム粒やや多く、5mm 以下焼土少し含む
17. 黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに4cm 以下ロームブロック主体
 - a. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～30mm ロームブロック多く含む
 - b. 黄灰色土 締り有、粘性やや弱、2mm 以下ローム粒多く含む
 - c. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体、シミ状に黒褐色土含む
 - i. 黒褐色土 締り有、粘性有、ソフト質ロームブロック・5mm 以下粒多く含む
 - ii. 黒褐色土 締り強、粘性有、灰色味が有る、1cm 以下ロームブロック・粒やや多く含む
 - iii. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、5～20mm ロームブロック多く含む
 - iv. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、5～10mm ロームブロック少し含む
 - v. 黒褐色土 締り強、粘性有、5mm 以下ローム粒少し含む

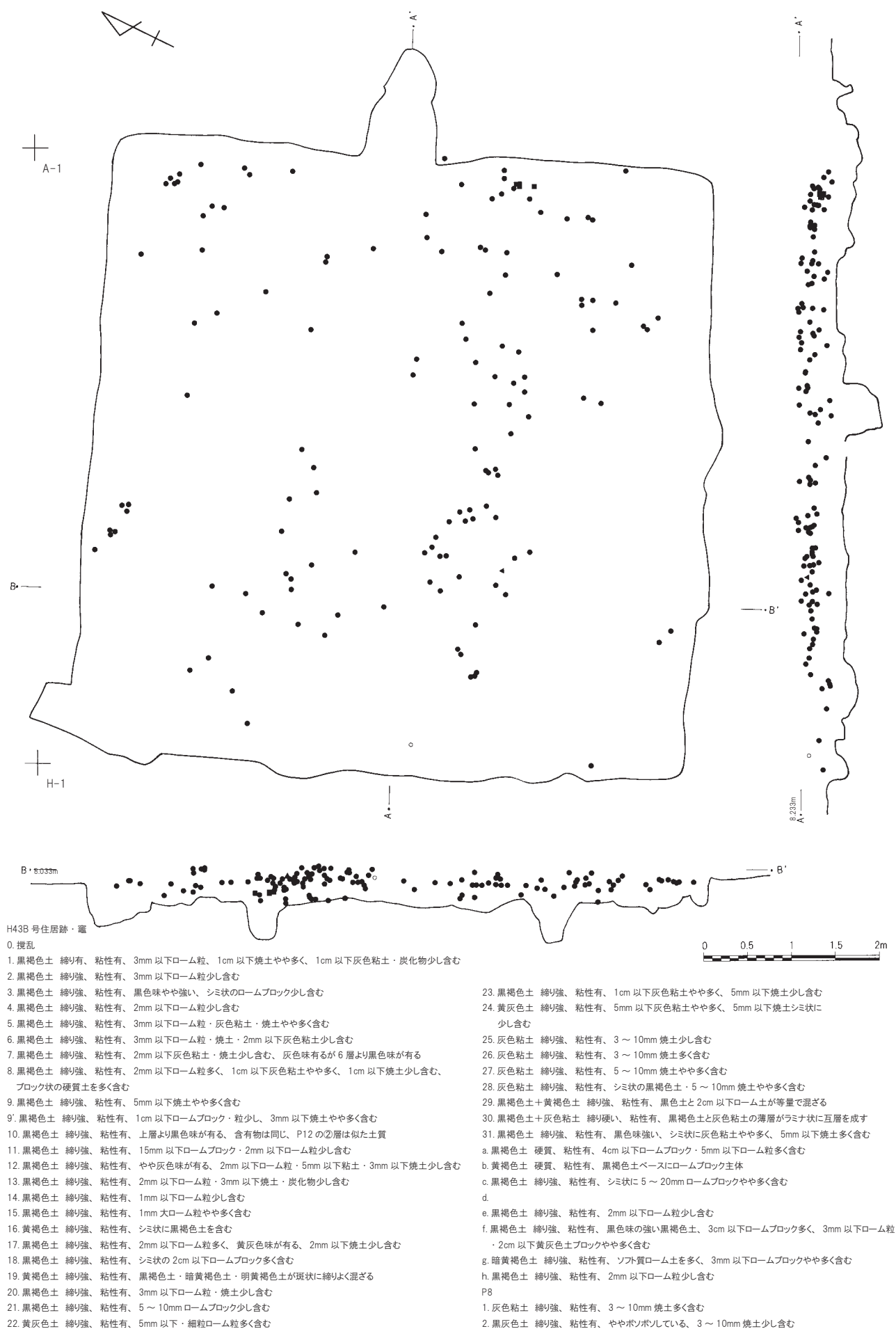
第27図 松山遺跡第65・66地点H42号住居跡掘方・竈遺物出土状況(1/60・1/30)



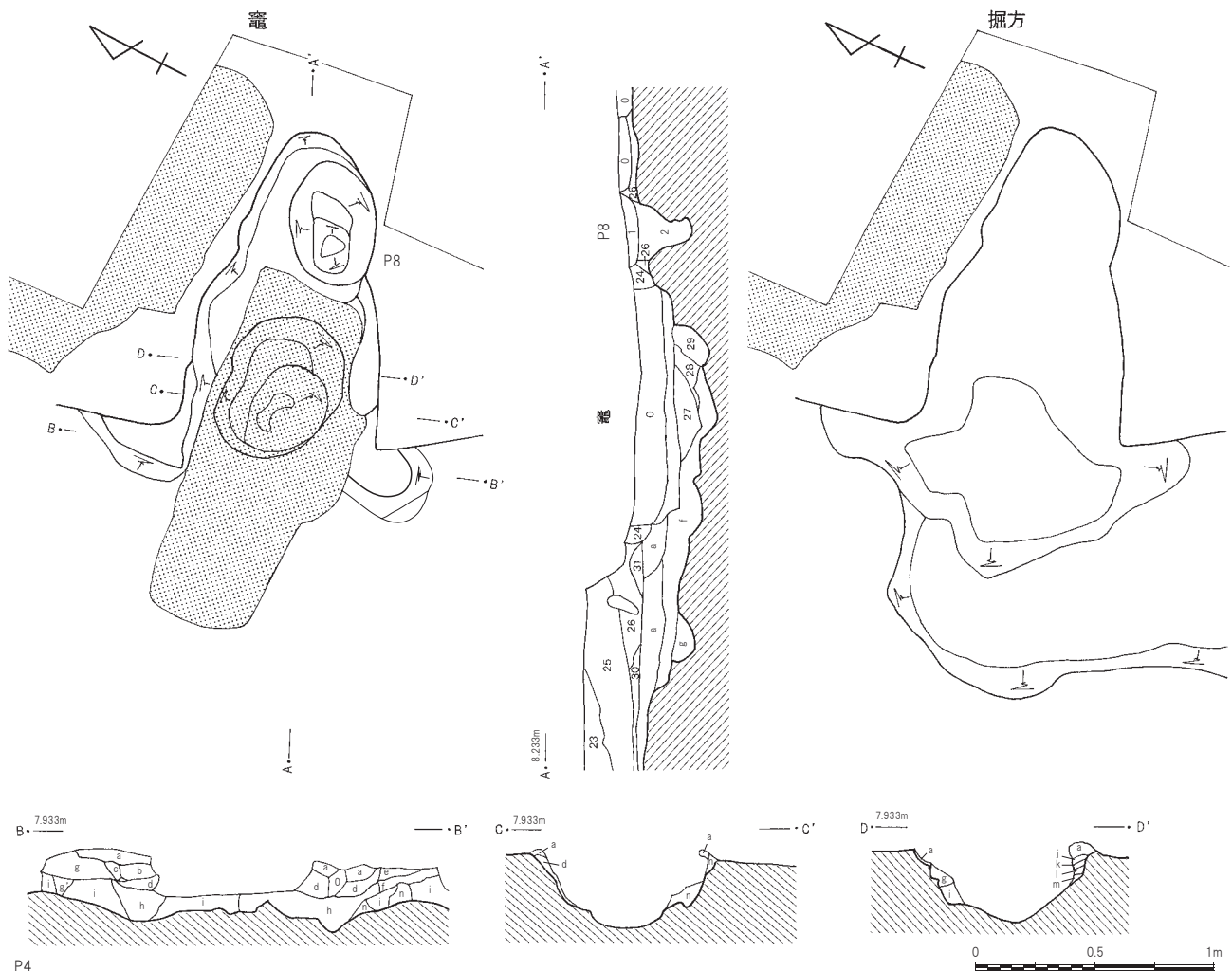
第 28 図 松山遺跡第 66 地点 H43B 号住居跡 (1/60)



第29図 松山遺跡第66地点 H43A・B号住居跡・掘方 (1/60)



第 30 図 松山遺跡第 66 地点 H43A・B 号住居跡遺物出土状況 (1/60)



P4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・2mm以下焼土少し、9cm礫含む
2. 黄灰色土 締り強、粘性有、5cm以下黒褐色土ブロック・シミ状の3mm以下ローム粒やや多く含む

P6

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、ロームブロック多く含む（貼床の土質に近い）

P7

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黄灰色土 締り有、粘性有、1cm大ロームブロック・黒褐色土ブロック少し含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む

P10

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下焼土やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状の5mm以下ローム粒多く含む

P11

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm灰白色粘土多く、5mm焼土少し含む
2. 黄灰色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む P13
1. 黒褐色土 締り強、粘性有、黄灰色味有、3mm以下ローム粒・焼土やや多く、1cmロームブロック・2mm以下炭少し含む

2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土少し含む

3. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状のロームブロック・15mm以下ローム粒少し含む

4. 黒褐色土 締り硬い、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む

P14

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、5mm以下ローム粒・焼土少し含む

P15

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒・焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm大焼土少し含む

P16

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、5～15mmロームブロック・3mm以下ローム粒・5～10mm焼土少し含む
2. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cmロームブロック少し、3mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cmロームブロック少し、シミ状にローム土やや多く含む

P17・19・20・22

1. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒少し含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック少し、5mm以下ローム粒やや多く含む
3. 黒褐色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、黄灰色土ベースに、1cm以下ロームブロック主体

P18

1. 黄灰色土 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む、上部に灰白色粘土混じる

P21

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・5mm以下灰白色粘土少し、5mm以下炭化物僅かに含む
2. 黄灰色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く含む
3. 黄灰色土 締り有、粘性有、シミ状の3mm以下ローム粒少し含む

P23

1. 黄灰色土 締り強、粘性有、3mm以下ローム粒・5mm以下焼土・灰色粘土やや多く含む
2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1cm以下ロームブロック・粒多く含む
3. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースにロームブロック・粒主体
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体

B-B' ～ D-D'

- a. 灰色粘土 締り強、粘性強、シミ状に5～20mm焼土少し含む

- b. 青灰色粘土 締り強、粘性強、酸化土少し含む

- c. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土多く、5mm焼土少し含む

- d. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm大ローム粒・炭化物、5～10mm灰色粘土少し含む

- e. 黄灰色土 締り強、粘性有、5mm大灰色土少し含む

- f. 黄灰色土 締り強、粘性有、ロームブロック・1cm大灰色粘土少し含む

- g. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状にローム土・3mm以下ローム粒僅かに含む

- g'. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む

- h. 黒褐色土 締り強、粘性有、黒色味強い、3cm以下ロームブロック多く含む

- i. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状に大型の5～30mmロームブロック多く含む、含まれる黒褐色土は黒色味強い

- j. 黒褐色土 締り強、粘性有、シミ状のローム粒・3mm以下焼土少し含む

- k. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体

- l. 黒褐色土 締り強、粘性有、含有物は少ない

- m. 黒褐色土 締り強、粘性有、j層に似るが焼土を含まない

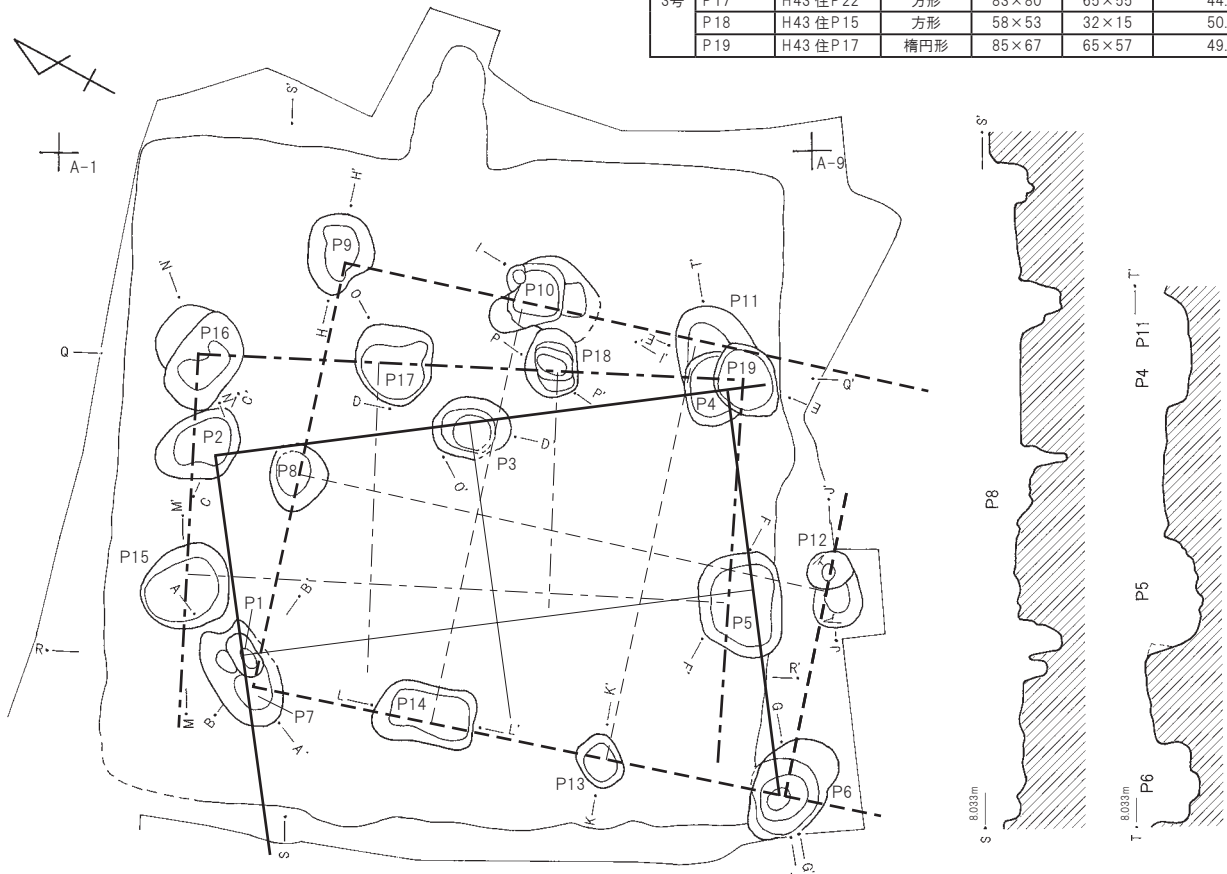
- n. 黄褐色土 締り強、粘性有、ローム土主体

第31図 松山遺跡第66地点 H43B 号住居跡竈・掘方 (1/30)

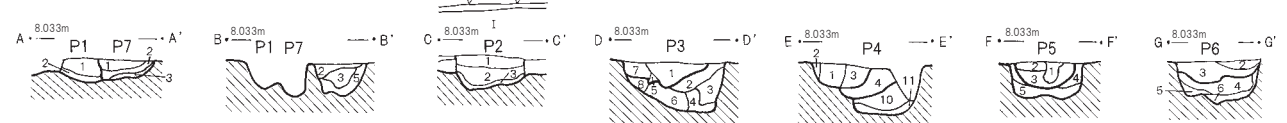
第 24 表 松山遺跡第 66 地点掘立柱建物跡ピット一覧表 (単位 cm)

	新No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1号	P1	P5	不明	63×(56)	23×11	39.3
	P2	P12	楕円形	93×67	66×51	32.5
	P3	H43 住P18	円形	81×65	40×35	58.2
	P4	H43 住P16b	不明	78×(38)	60×(32)	32.9
	P5	H43 住P20	方形	109×83	87×64	54.9
	P6	P15	円形	82×75	24×19	56.7

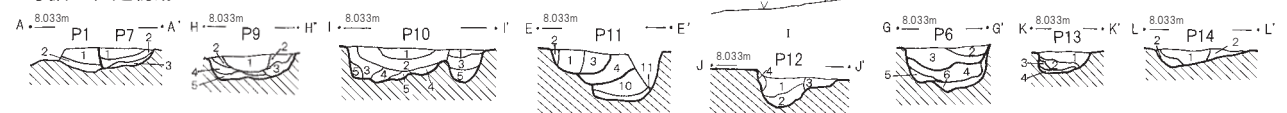
	新No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
2号	P7	H43 住P21	不明	69×(59)	38×(38)	24.3
	P8	P13	円形	72×62	45×37	35.5
	P9	H43 住P1	円形	83×70	61×35	36.0
	P10	H43 住P13	方形	66×60	49×46	42.2
	P11	H43 住P16a	不明	81×(50)	44×(31)	32.8
	P12	P14	だるま形	79×51	16×12	43.0
3号	P13	H43 住P17	方形	71×65	61×56	47.9
	P14	H43 住P9	長方形	106×63	86×44	35.6
	P15	土坑6	円形	100×81	43×23	21.5
	P16	H43 住P29	だるま形	102×56	92×37	50.6
	P17	H43 住P22	方形	83×80	65×55	44.2
	P18	H43 住P15	方形	58×53	32×15	50.9
	P19	H43 住P17	楕円形	85×67	65×57	49.0



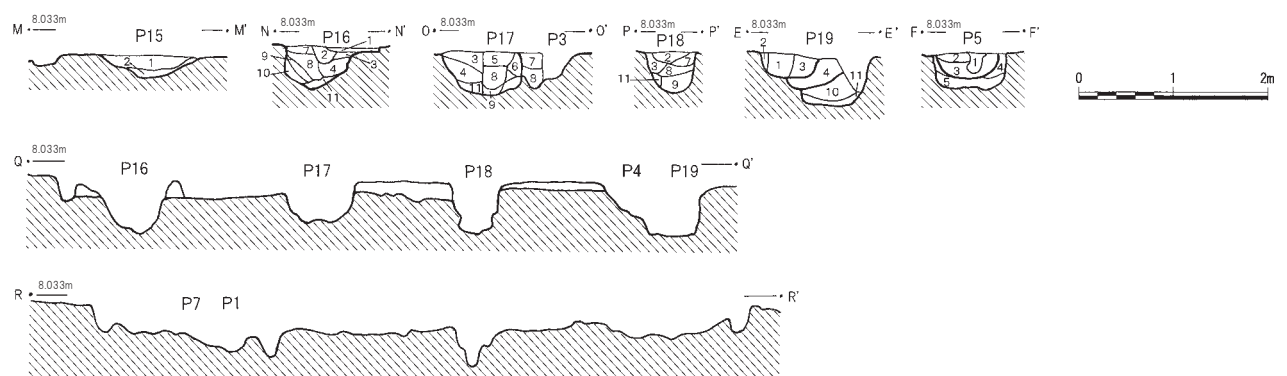
1号掘立柱建物跡



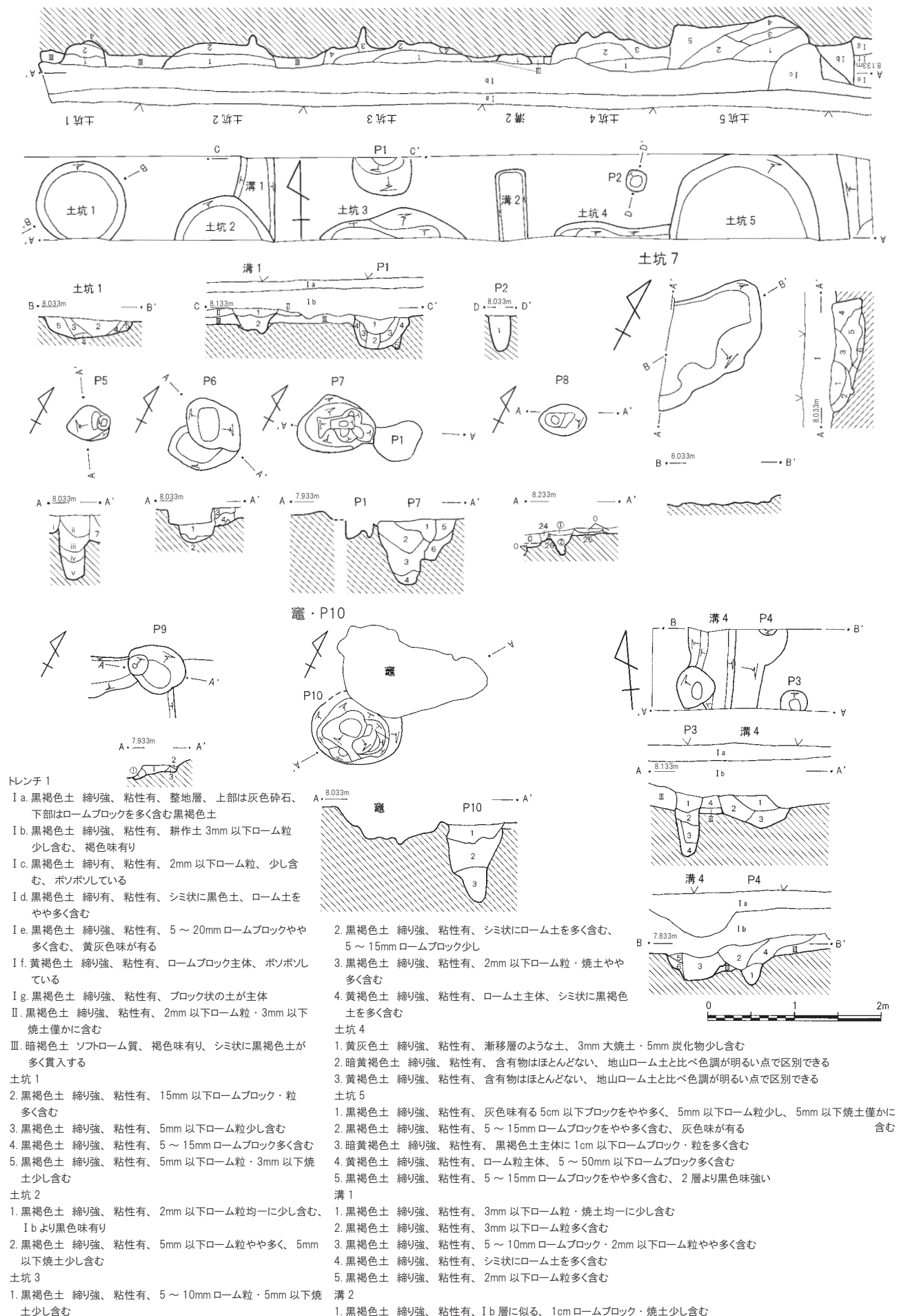
2号掘立柱建物跡



3号掘立柱建物跡



第 32 図 松山遺跡第 66 地点掘立柱建物跡 (1/80)



第 33 図 松山遺跡第 66 地点土坑・ピット・溝 (1/60)

第 25 表 松山遺跡第 66 地点 H43 号住居内ピット一覧表
(単位 cm)

新No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	P2	だるま形	64×45	29×24	48.9	主柱穴B
P2	P3	方形	29×27	19×19	14.7	
P3	P4	方形	35×30	19×15	18.5	
P4	P5	楕円形	27×18	18×11	13.1	
P5	P6	方形	43×39	16×15	78.4	主柱穴B
P6	P8	方形	27×22	21×12	16.5	
P7	P10	方形	30×26	17×17	20.8	
P8	P11	円形	63×55	23×15	57.0	主柱穴B
P9	P14	円形	53×49	9×9	56.1	主柱穴B
P10	P19	円形	40×33	18×17	14.2	
P11	P23	楕円形	38×28	11×10	56.0	
P12	P24	方形	19×16	11×8	19.8	
P13	P25	方形	(39)×34	30×19	14.3	
P14	P26	だるま形	40×28	13×11	37.6	
P15	P27	不明	50×42	7×6	29.8	
P16	P30	方形	55×47	47×35	34.0	
P17	P31	方形	44×41	11×11	45.5	主柱穴A
P18	P32	方形	34×25	16×10	47.2	
P19	P33	円形	33×28	10×8	42.2	主柱穴A
P20	P34	だるま形	34×25	9×8	63.8	主柱穴A
P21	P35	円形	23×18	10×9	32.1	
P22	P36	円形	22×19	6×6	48.3	主柱穴A
P23	P12	不明	36×(21)	7×7	37.4	

第 26 表 松山遺跡第 66 地点土坑・ピット一覧表
(単位 cm)

新No.	旧No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑1		円形	102×84	(83)×(77)	24.4	
土坑2		不明	112×(50)	90×(39)	15.5	
土坑3		不明	169×(35)	80×(14)	13.2	
土坑4		不明	(133)×(17)	(18)×(8)	16.8	
土坑5		不明	172×(97)	150×(84)	46.3	
欠番	土坑6					3号掘立柱建物跡P15
土坑7		不明	(105)×101	(91)×77	34.2	
P1	P1	不明	68×(43)	27×(8)	29.6	
P2	P2	方形	23×22	12×12	41.9	
P3	P3	不明	30×(22)	(14)×11	52.0	
P4	P4	不明	21×7	8×2	22.7	
P5	P7	菱形	51×39	8×7	83.1	
P6	P8	不整形	80×67	38×26	28.1	
P7	P10	楕円形	88×65	11×5	80.1	
P8	P11	円形	63×55	22×15	57.0	
P9	P6	楕円形	69×54	5×4	45.1	
P10	P9	方形	84×71	26×20	94.0	

第 27 表 松山遺跡第 66 地点溝一覧表 (単位 cm)

No.	断面形態	上幅	下幅	深さ	備考
溝1	ㄣ字	37～49	21～35	10.7	
溝2	ㄣ字	32～33	24～27	4.6	
溝3	ㄣ字	28～35	15～15	35.2	
溝4	ㄣ字	80～113	15～30	29.7	

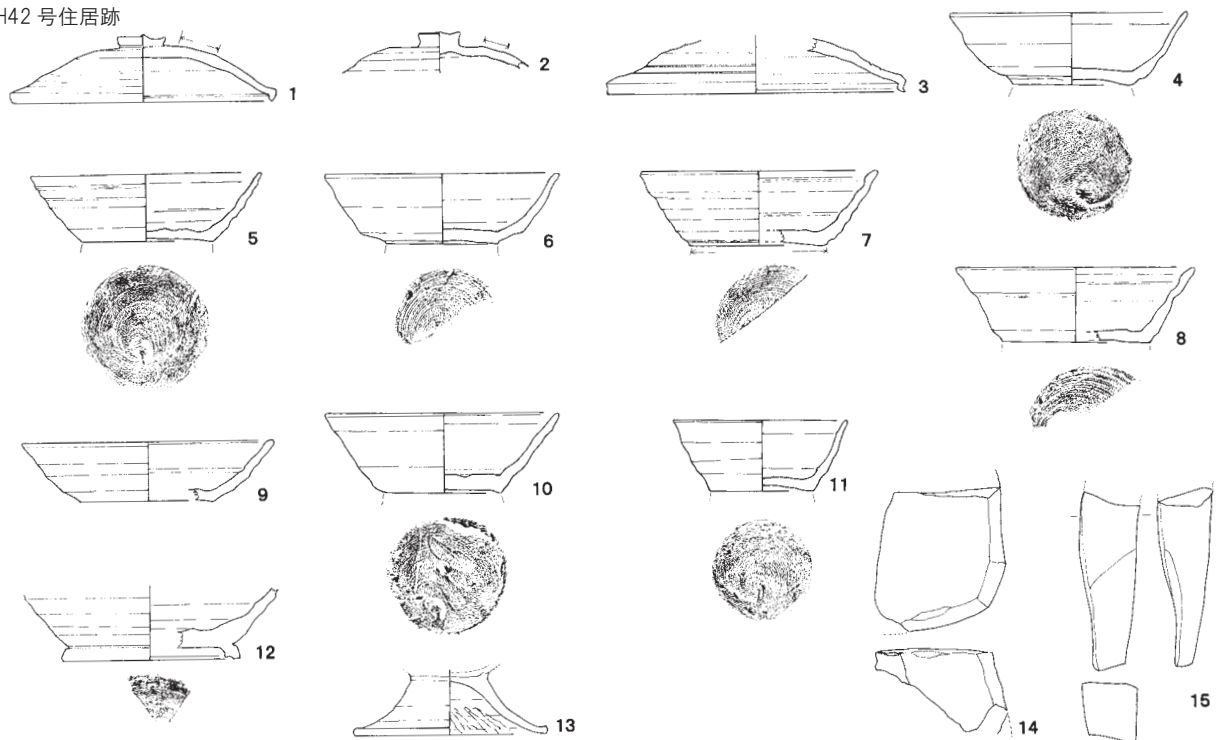
⑤出土遺物

【H42 号住居跡出土遺物】

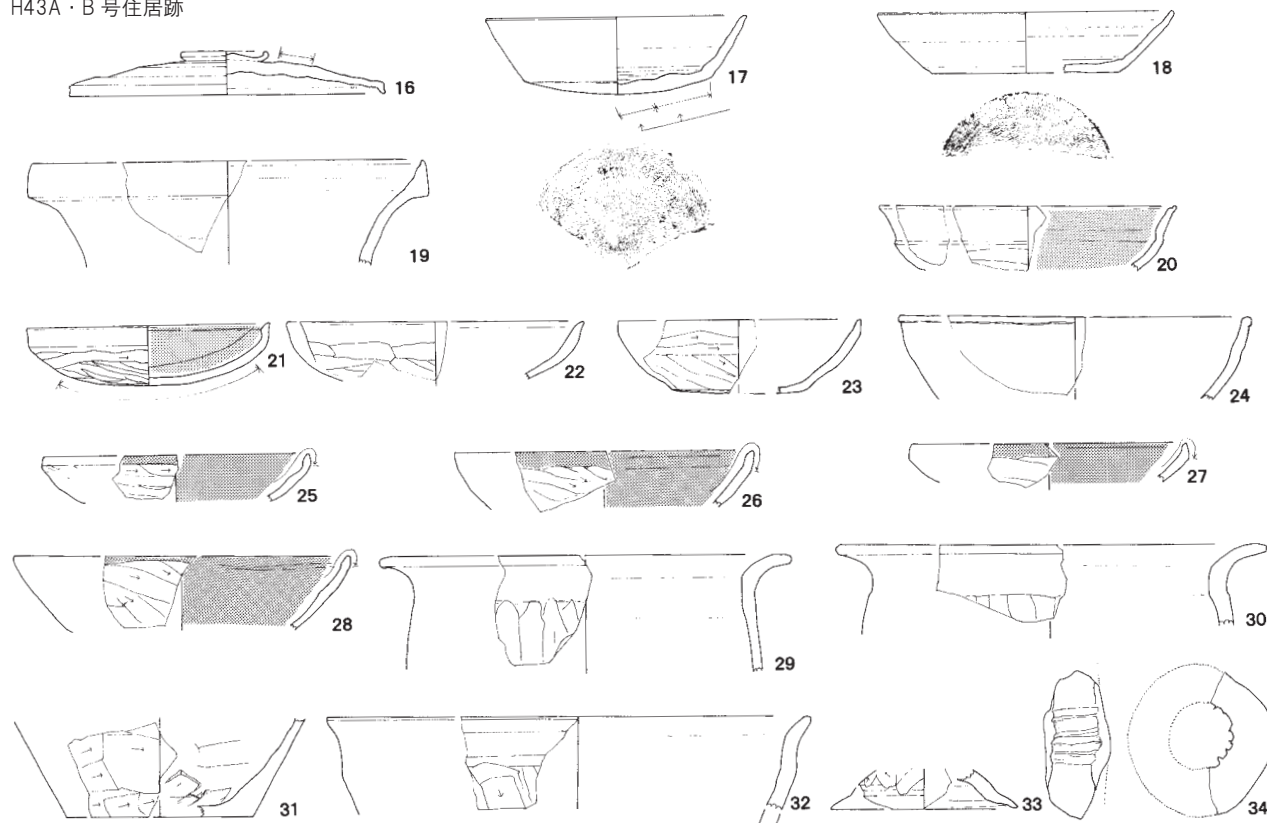
1～3は須恵器蓋形土器。1は完形。径14cm、器高3.6cm。肩部外面に幅2.0cmの回転ヘラ削り。上面にはつまみを中心として円形12cmの範囲が茶褐色。その外側と内面は灰色。坏の上に逆位の重ね焼きの痕跡である。胎土に石英3mmの粒子、白色針状物質を含む。2はつまみ部分。色調灰褐色。肩部外面に幅1.5cmの回転ヘラ削り。白色針状物質を含む。3は、口唇部みの破片。口径16cm、1/4現存。5mm、2mmの石英粒子、白色針状物質を含む。色調青灰色。

4～11は 須恵器環形土器。4は、完形、口径12.8cm、器高3.8～4.0cm、底径6.4cm。ロクロ円柱痕の径6cm、底部は回転糸切離し。色調灰黄褐色。胎土に黒色の1mmの砂粒、石英の3mmの粒子、白色針状物質を含む。5は、口縁部1/2欠、口径12.2cm、器高3.7cm、底径7.0cm。底部は回転糸切離し。外面にはロクロ水引き痕が多段に施す。色調暗灰色。胎土に石英の1～4mmの粒子を多量、白色針状物質を含む。6は、口径12.5cm、器高3.7cm、底径8.0cm、ロクロ円柱痕の径6cm、底部は回転糸切離し。色調灰白色。胎土に黒色の1mmの砂粒、石英の3mmの粒子、白色針状物質を多量に含む。7は、口径12.8cm、1/4現存。器高4.2cm、底径6.8cm。色調青灰色、口唇部内面に強い押さえがある。外面のロクロによる凹凸が著しい。胎土に1～2mmの白色砂粒が多量に均一に混じる。東金子窯の産と思われる。8は、口縁部、底部とも1/4現存、推定口径12.8cm、器高4.0cm、底径8.0cm。底部は回転糸切離し。外面中央にロクロの押圧痕が著しく、口唇先端の内面も押圧による凹みがある。色調暗灰色。胎土に黒色の砂粒と石英の1～4mmの粒子を含み、白色針状物質を含む。9は、口縁部4/5現存、底部1/5現存、推定口径13.5～13.0cm、器高3.2～3.4cm、底径7.0cm(推定)。底部は回転糸切離し。体部下半は内湾しながら外面にロクロの押圧痕が著しい。色調茶褐色で胎土に石英粒子1～4mmは多量に含み、白色針状物質を微量に含む。10は、完形。口径12.6cm、器高4.3cm、底径6.7cm。底部は回転糸切離し。色調黄色。胎土に黒色の1～5mmの黒色の砂粒、石英の3mmの粒子を含む。わずかであるが雲母粒子を含む。内面は非常に滑らかでロクロ痕の凹凸はなく、底部からの立ち上がり部にいわゆる爪立て痕が著しい。しかも直線的に「ハ」の字状に開き器高が高い。他の坏の形

H42 号住居跡



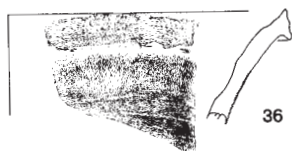
H43A・B 号住居跡



掘立柱建物跡 1(P12)



掘立柱建物跡 2(P6)



掘立柱建物跡 3(P2)



遺構外



態に較べて異質で、雲母の混入など茨城県の木葉下窯の産であろう。11 は小形の坏。口径 9.0 cm、器高 3.7 cm、底径 5.5 cm。底部は回転糸切離し。色調青灰褐色。胎土に 3 mm の石英粒子、白色針状物質を含む。

12 は、長頸瓶の底部か。高台の底径 11 cm。高台底面に沈線による凹みが廻っている。外面高台接合部の上方に回転ヘラ削り痕が廻っている。

13 は、土師器台付き甕の脚部。脚部全周し、径 10.5 cm。色調黄褐色。脚部内面には指頭による斜め押さえ痕が等間隔に施され、その上に外面ともにナデ回転で整形されている。

14 は、竈の支脚で上端部のみ残存。ほかは大きく欠落している。

15 は方形の砥石。石質は、白色砂岩。四面が砥石面。上端部欠損。重さ 117.27g

【H43 号住居跡出土遺物】

16～19 は、須恵器。16 は環状つまみの蓋形土器で体部 1/4 現存、口径 17 cm。器高 2.3 cm。環状つまみの径 4.6 cm、つまみ中央が突出している。肩部に回転ヘラ削り痕。色調青灰色。胎土に 2～3 mm の石英粒子と細かい砂粒、白色針状物質を含む。17・18 は、環形土器で、17 は、体部 1/2 現存、口径 14 cm、器高 4.2 cm、底径 9.5 cm。底部は 2 回にわたる回転ヘラ削りによる。色調青灰色。胎土に 2～3 mm の石英粒子と細かい砂粒、白色針状物質を含み、胎土は 16 に似る。18 は、体部 2/3 現存、口径 16.0 cm、器高 3.3 cm、底径 10.8 cm。色調青褐色。胎土に 2～3 mm の石英粒子と細かい砂粒、白色針状物質を含む。胎土は 16・17 に似るが白色針状物質が多量に含む。底部は回転ヘラ削り。19 は、壺形土器の口縁部破片、現存 1/8、口径 21 cm (推定)。色調青灰色。外面内面ともにクロ口整形は丁寧で、胎土も精錬され非常に細かい砂粒が混じる。

20～23 は土師器環形土器。特徴を看取できる。20 は、口径口唇部内面に一条の沈線が廻る。内面には赤彩が施され、外面は口縁部と底部の境は緩やかに移行する。内面に炭状物質は付着。胎土は 1 mm 以下の砂粒を混入。白色針状物質を含む。21 は、2/3 現存。口径 13 cm、器高 3.1 cm。口唇部は内剃りで先端を尖らせている。内面には赤彩が施され、20 と同じ炭状物質が付着。外面は、底面に一定方向にヘラ削りを施した後、口縁部と底面の境を横にヘラ削りを一周させている。図示した底部の矢印の範囲に円形に黒斑が付

着。胎土には 2～5 mm の石英などを含む。22 は、1/5 現存。口径 16 cm、器高 (推定) 3.5 cm。口唇部は内剃り。残存内面は口唇部先端まで黒色の炭化物がこびりついている。胎土には 2～5 mm の石英などや、白色針状物質を含む。23 は、1/5 現存。口径 (推定) 12～13 cm、器高 (指定) 4.0 cm。口唇部先端は細く直立。底部は緩い平坦に整形し、体部と区別される。体部は斜め右下方向にヘラ削りの後、口唇部と体部の境を横方向にヘラ削り。内面と口唇部直下には強い横ナデで整形。胎土は 1 mm 以下の砂粒で白色針状物質を含む。よく精錬され、上記 21～22 と異なり、20 に似る。

24 は、土師器碗形土器。1/7 現存。口径 (推定) 18～19 cm、器高、底部形状は不明。胎土は 1 mm 以下の砂粒を混入。よく精錬されている。口唇部を丸く整形し、体部外面と内面は丁寧なヘラ磨きによる整形で光沢をおびている。

25～28 は 1/8～1/10 の小破片の土師器環形土器。25 は、口径 14.5 cm。口唇部の先端をとがらせ、26 は、口径 16 cm、内剃り気味に整形。27 は、口径 15 cm。口唇部と体部の境が、強く屈曲している。28 は、口径 18 cm。23 と同じく体部が直線的に整形され、平坦気味の底部を整形しているもの。いずれも胎土は 1 mm 以下の砂粒を混入。よく精錬されている。

29・30 は土師器甕形土器。いずれも 1/12 の小破片。口縁部を強く外湾させ、外面胴部を縦ヘラ削りで整形した後、口縁部外面と内面を横ナデで整形。31 は上記甕の底部破片。底径 10 cm。底部下部を横ヘラ削り。底面は平坦に整形。内面に木口状工具でナデ整形。

32 は、土師器甕形土器。1/12 現存。口径 (推定) 27 cm の大形と推定したが、疑問が強い。口縁部内面と外面は強い横ナデ。外面に煤が付着。

33 は、土師器小形台付甕の脚部。脚の径 10 cm。先端を強い横ナデによって整形。上部はヘラ削りにより整形。色調茶褐色で胎土は白色針状物質を含む。

34 は羽口の胴部破片と推察した。中央の穴は竹管状工具で、刺突を繰り返して、貫通させたもの。

【掘立柱建物跡出土遺物】

35 は、1 号掘立柱建物跡のピット No12 出土の須恵器坏の破片。口唇部は緩く外湾して引き出している。現存 1/6、口径 12.8 cm。9 世紀代のもの。36 は、2 号掘立柱建物跡のピット No6 より出土。須恵器壺の口縁部破片。1/8 現存。口径推定 15 cm 前後。37 は、3 号掘立柱建物跡のピット No2 より出土。土師器甕

の底部破片。38 は、遺構外出土の石鏃で、石質は黒曜石。長さ 1.9cm、幅 1.4cm、厚さ 0.3cm、重さ 0.54g。側面は直線的に整形され、全体的に剥離は細密である。

42 号住居は、出土遺物から 9 世紀前半、43 号住居は 8 世紀第一四半期に求められよう。掘立柱建物は、構築年代を示す確かな資料はないが、掘立の掘方などが乱れていることや掘立柱の掘方から出土した須恵器破片などから、43 号住居が廃絶後に建てられたもので 9 世紀中葉前後以降に短期間に繰り返し構築されたものと推定している。(笹森健一)

VI 松山遺跡第 67 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 1 月 16 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 2 月 19 日、幅約 1 m のトレンチ 1 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、遺構・遺物が確認できなかったため、慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 50 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

VII 松山遺跡第 68 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2013 年 2 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡南端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2013 年 3 月 7 日から 8 日まで、幅約 1 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、中世の井戸 1 基と近世以降の土坑及びピットを確認した。

地表面から遺構確認面までの深さは約 40 cm であるが、20 cm の盛土を行うので、30 cm の保護層が確保できるため工事立会の措置とした。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【井戸】調査区中央西側に位置する。確認面は隅丸方形に近い円形で、底面は円形。東側の立上りはテラス状の段を持つ。鉢と甕の破片が出土し、時期は中世。規模は第 28 表参照。

【土坑・ピット】土坑 1 は断面半円形。トレンチ検出部のみ調査した。ピットは 7 基検出し、内 4 基を確認調査した。規模は第 28 表参照。

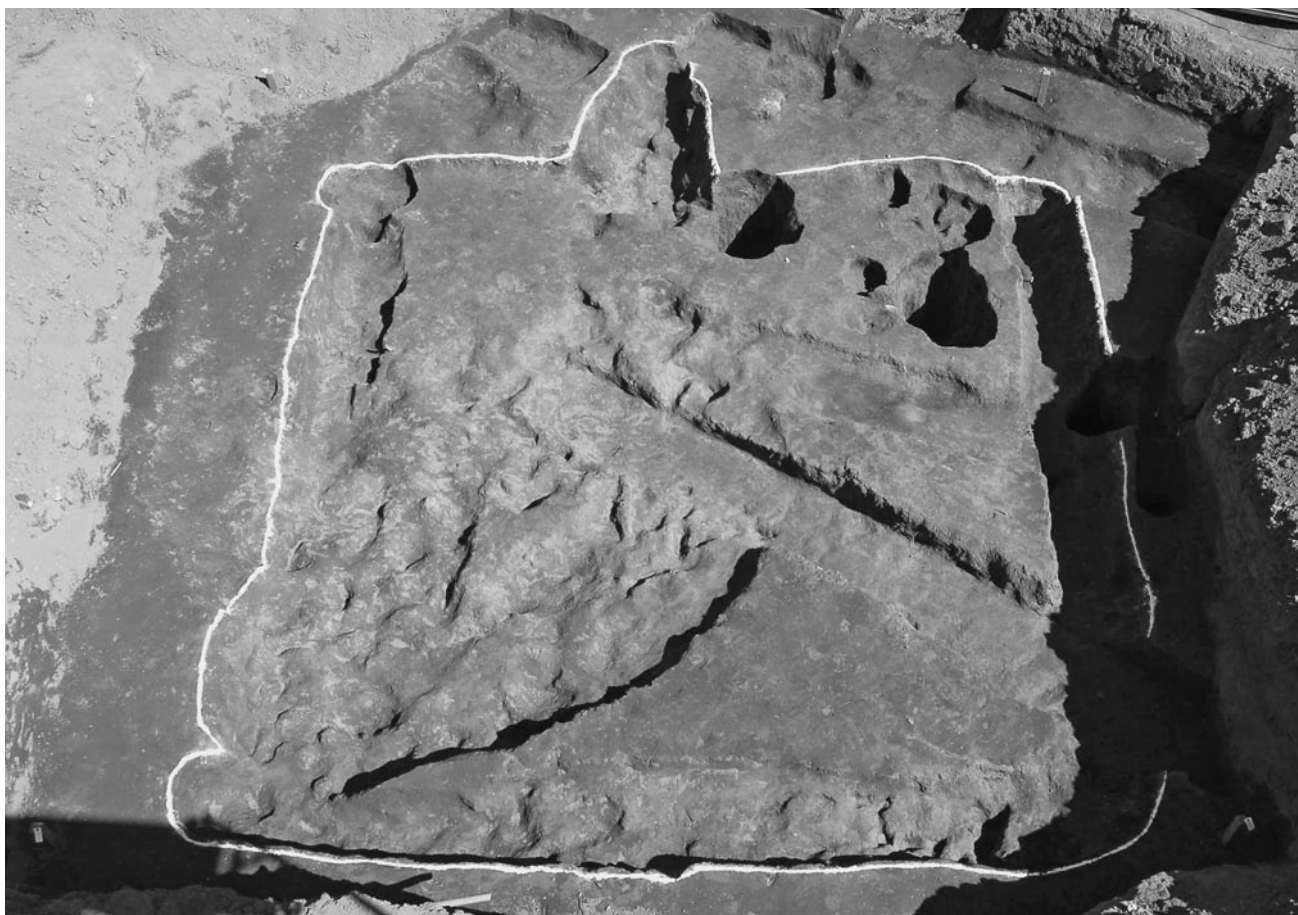
【出土遺物】(第 35 図 1・2)

1 は陶器製の鉢で底部に高台が付く。内外面と割れ口の一部に擦痕調整と磨り跡があり、硯や砥石への転用が考えられる。常滑産か。

2 は須恵器甕で、外面叩き目、割れ口に擦痕調整、内面に磨り跡がみられる。転用硯か転用砥石とみられる。1、2 共に擦痕などの特徴があり興味深い。

第 28 表 松山遺跡第 68 地点土坑・井戸・ピット一覧表
(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
土坑 1	不明	202×(91)	95×70	59.4	
井戸 1	(円形)	128×(85)	(54)×53	121.6	
P1	不明	65×(27)	30×(15)	49.5	
P2	不明	46×(26)	13×(5)	58.2	
P3	不明	42×(21)	15×(6)	20.6	
P4	方形	23×22	15×11	57.0	



松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡全景



松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡竈



松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡遺物出土状況



松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡貼床内遺物出土状況



松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡貼床掘方



松山遺跡第 65・66 地点 H43A・B 号住居跡全景



松山遺跡第 65・66 地点 H43A・B 号住居跡全景



松山遺跡第 65・66 地点 H43A・B 号住居跡



松山遺跡第 65・66 地点 H43A 号住居跡



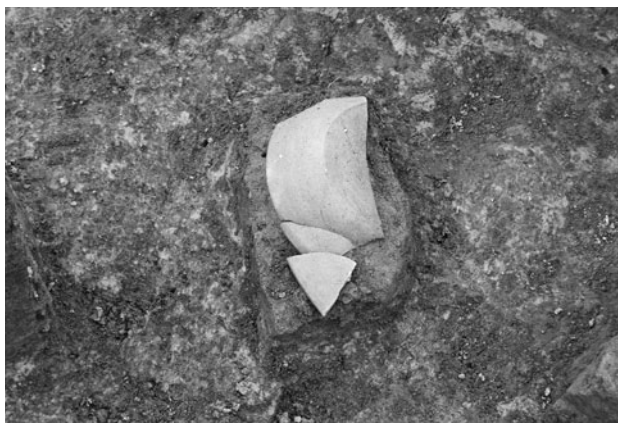
松山遺跡第 65・66 地点 H43A 号住居跡



松山遺跡第 65・66 地点 H43B 号住居跡竈



松山遺跡第 65・66 地点 H43B 号住居跡竈断割り



松山遺跡第 65・66 地点 H43 号住居跡遺物出土状況



松山遺跡第 65・66 地点掘立柱建物跡

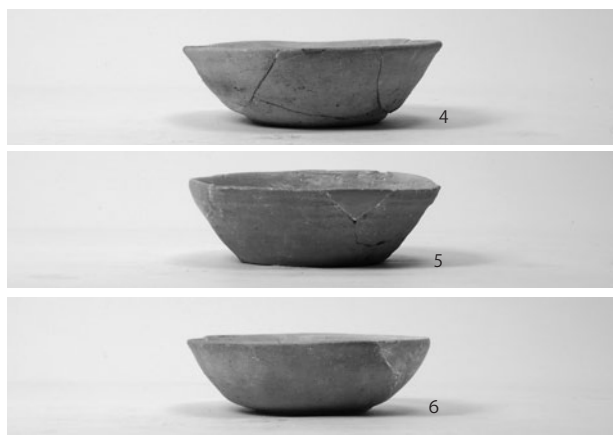
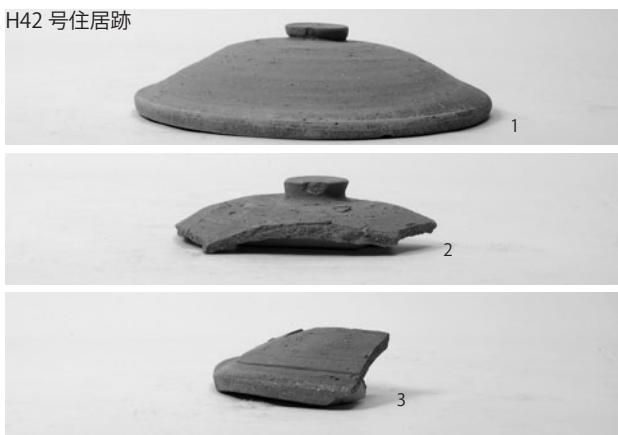


松山遺跡第 65・66 地点調査風景



松山遺跡第 65・66 地点調査風景

H42 号住居跡



松山遺跡第 65・66 地点 H42 号住居跡出土遺物 No.1 ～ 6



H42 号住居跡出土遺物 No.7 ~ 15

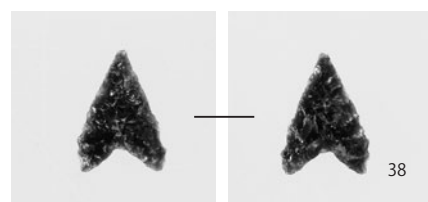
H43A・B 号住居跡



H43A・B 号住居跡出土遺物 No.16 ~ 34、掘立柱建物跡 1(P12)・2(P6) 出土遺物 No.35・36



掘立柱建物跡 3(P2) 出土遺物 No.37



遺構外出土遺物 No.38